

2024 年度事業報告書

2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで

一般社団法人 ヤマネ・いきもの研究所

2024年4月1日から2025年3月31日にかけて当研究所で、実施した活動を以下に報告する。

1. 事業実施の方針（2019年度からの継続）

- (1) ヤマネを総合的に研究し、その成果を基に保全・教育を行い、地球社会を支える人材を育成する
- (2) いきものの不思議を研究し、その成果を基に保全し、いきもの・自然・人を愛する人々を育成する
- (3) 研究成果・活動成果を社会に発信する
- (4) ヤマネ・いきものを通して、市民・企業・研究者・大学・学校・行政等と連携することで、人々が地球社会保全に参画することを促す
- (5) 生物多様性保全・持続可能な地球社会達成に貢献する

2. 研究員について

(1) メンバー

2024年度中に2名追加した。

(以下、あいうえお順)

飯島 昌（関西学院大学 SDGs・生物多様性研究センター客員研究員）

大河内 友翔（檀原市立畝傍南小学校）

久禮 雄市朗（西宮市立広田小学校）

河野 真之（大阪市立粉浜小学校）

小林 美博（やまなし野鳥の会事務局長）

小山 泰弘（長野県林業総合センター）

中山 孝志（公財 キープ協会）

布目 三夫（岡山理科大学）

早川 篤（地方独立行政法人 天王寺動物園）

古曾尾 胡桃（野里小学校）

森 博司（串本町コミュニティスクール推進員）

村山 真奈美

以下、2024年度追加2名

小松 裕幸（清水建設株式会社）

増田 順

(2) 活動内容

生き物関連調査と研究活動、教育実践と教育研究、SDGsに関わる活動をDWIと協働で実施。研究成果については、共有する。

3. 研究活動（受託調査以外）

ヤマネの研究及び山梨県北杜市周辺の生物調査と野鳥調査など計7件を実施した（表1）。

表1. 2024年度に実施した研究活動

	業務名	日付(期間)	実施場所	概要
1	ヤマネ基礎調査	通年	山梨県北杜市 清里	ヤマネの生態調査を実施。2家族、計8頭のヤマネを捕獲した。そのうちの捕獲した2頭に発信機を装着し、行動範囲、休息場所、冬眠場所について調査を実施。
2	ヤマネ基礎調査	2024年4月～9月	山梨県北杜市 小淵沢	南アルプスによるヤマネに対する遺伝的な分断の影響を探るための調査。本調査地はApWA設置候補地としても考慮。ヤマネの確認はなし。2025年には撤去予定。
3	ヤマネ基礎調査	2023年4月～ 2024年3月	和歌山県 串本町 古座川町	和歌山県では高速道路開発により森林の伐採が行われている。開発と保護の両輪を図るため、ヤマネの基礎調査を行う。 ・串本町は、海岸に近い地域で調査を実施中。 ・古座川町は、山林地域での調査を実施中。引き続き定点カメラでの調査も実施。
4	ヤマネ基礎調査	2024年 11月3日～5日	島根県 隠岐の島町 (島後)	・島後は、中条小学校への出前授業後、地点を絞って巣箱について確認、巣箱の交換を行った。また、可能性が低い地域については、巣箱を撤去。 ・島前の巣箱調査は費用が拠出できなかったため実施なし。
5	環境DNAを用いた ヤマネの生態調査	通年		ヤマネの糞は分析を専門に実施している生物技研へ送付し、分析。ヤマネが森林内で何を餌資源としているかを調査。 共同研究者：佐藤淳氏(福山大学)、布目三夫氏(岡山理科大学)
6	里山の生き物調査 (水路調査)	通年	山梨県北杜市 下黒沢	田んぼ周辺の水路に生息する昆虫と本田のヤゴについて調査。調査は、各月実施。 共同研究者：中山孝志氏
7	鳥調査	通年	山梨県北杜市 下黒沢	研究所周辺に生息する鳥類について調査。調査は、各月実施。 共同研究者：小林美博氏

(1) 山梨県北杜市のヤマネ調査

八ヶ岳山麓には3か所の調査地を設けており、その内清里地区について重点的に調査を行った。また、他2か所については今後の調査実施についての整備が必要な状況である。

【巣箱調査】

1) 清里地区

2024年4月から10月まで、毎月1回、巣箱内の利用状況を定期的に調査した。巣箱内にてヤマネを確認した場合は一時的に捕獲をし、体重・性・繁殖状況等を記録した後、マーキングをした。調査期間中、ヤマネを8頭確認した。

これまでの調査では、巣箱では雌の巣箱利用が多かったが、2024年度は雄の利用が多かった（図1、2）。

また、雌による繁殖を観察することはなかった。



図 1. 巣箱内でのニホンヤマネ



図 2. 枯れ葉の巣中にいたヤマネ

巣箱で営巣していたヤマネの巣材は大きく 2 タイプ観察された。1 つめは、蘚苔類（図 3）で、樹幹に付着するシダレヤスデゴケなど繊維性の種類を用いていた。これは、ヤマネは巣材を編み込むことがあるため、繊維性の種が適している材料からだと考えられる。2 つめは樹皮である。細かく裂き用いていた（図 4）。



図 3. ヤマネの蘚苔類の巣材



図 4. ヤマネの樹皮の巣材



図 5. ヒメネズミの巣

ヒメネズミは、枯れ葉を巣材として用いていた（図 5）。ヤマネが時には、ヒメネズミの使い終えた枯れ葉の巣を利用することも観察された。

2) 長坂地区

2024 年度は、ヤマネの捕獲は見られなかった。また、巣箱の劣化などが見られるため、今後巣箱の交換作業が必要である。

3) 小淵沢地区

南アルプスによるヤマネに対する遺伝的な分断の影響を探るため、2023年に巣箱30個設置した。昨年に引き続き調査を会員である佐藤氏に協力いただき、巣箱調査を実施したが、ヤマネの本体、痕跡の確認はなかった。今後は巣箱を回収予定である。

【発信機調査】

重さ1グラムほどの発信機を装着した個体を2023年から継続して追跡することができた。

活動期の休み場所は、樹皮の間やつると幹の間の狭いすきまなどで行うが、今年度は巣箱でも観察された(図6)、健康状況は良好であることを確認した(図7)。

冬眠場所は、倒れたシラカバの朽ち木内部であったり、大きな岩の上であった。岩の上での事例は日本では珍しい事例である。



図6. ヤマネがいる巣箱



図7. 捕獲時のヤマネ

(2) 和歌山県串本町・古座川町での調査でのヤマネ調査

【串本町和深調査】

和歌山県では、国交省が高速道路において森を伐採しながら工事を展開している。そこで開発とヤマネ保護の両輪を図るため、定点カメラと環境DNAを用いて和歌山県串本町での継続調査を行った。定点カメラでの調査ではヤマネの確認に至ってはいない。本調査は、研究員である森氏にも協力いただいた。(図8、9)。高速道路開発は急ピッチで進んでいるためさらなる研究が急務である。



図8. 森氏との調査風景



図9. 調査地横を通過する建設中の道路

【古座川町猿川谷調査】

古座川町の猿川地域は山林地域である。本地区には、2022年11月7日に巣箱を15個架設しヤマネの生息確認を始めた。そして、2023年1月19日には溪流沿いの森でヤマネの巣材を確認したが、2024年12月19日にもヤマネの巣材が確認されている（図10）。現在、本調査地は和歌山県在住の森氏が中心となり確認を行っている。



図10 . 確認されたヤマネの巣材（樹皮）

（3）島根県隠岐の島のヤマネ調査（隠岐の島町、西ノ島町）

島根県隠岐の島町では、島内でのヤマネ分布と生活史を調べるのが目的で巣箱調査を展開してきた。2024年度は、ヤマネの痕跡が多く見られる調査地点の巣箱の交換を行い、次年度へ備えた。また、1か所の巣箱を回収し、調査日程と費用の調整ができなかったため、部分的に調査を実施した。その中で、蘚苔類を用いたヤマネの巣（図11、12）を確認した。巣材は、樹皮と蘚苔を用いたものであった。



図11. 巣箱交換作業



図12. 蘚苔類の巣材と枯葉

島根県西ノ島町では、費用の調整ができなかったため、調査を断念した。今後、要検討の調査地である。

（4）環境DNAを用いたヤマネの生態研究（図13、14）

天然記念物であるニホンヤマネ (*Glirulus japonicus*) の食性を非侵襲的に解明する手法を確立するとともに、森林生態系におけるヤマネの生態学的な役割を明らかにすることを目的とし、2021年より福山大学 佐藤淳教授と分析を実施してきた。また、2023年度からは岡山理科大学の布目氏にも共同研究に加わっていただき、分析した。

植物に関する結果は、富士山でも八ヶ岳地域でもマタタビ属が多く見られた。また、無脊椎動物ではアブラムシを含むカメムシ目が多く検出された。



図 13. 巣箱内の糞



図 14. 採取後の糞

(5) 里山の生き物調査（山梨県北杜市下黒沢）（図 15、16）

北杜市高根町下黒沢で、2024年4月から2025年3月まで調査を行った。今年度は、調査方法を変更し、田んぼ本田に水が入っている間に2か月に1回、ヤゴについても調査を行った。これまで実施してきた田んぼ周辺の水路の調査は、2か月に1回実施した。

本調査において、2024年度には29種確認した。本田では、ホウネンエビを確認することが出来た。また、水路の調査では引き続き、きれいな水を示す指標動物として、サワガニ、プランナリアなどが確認された。さらに、2022年度から引き続き、日本で減少中の貴重種であるタイコウチが確認された。2025年度はさらに別の手法で調査を継続予定である。

調査実施者：中山孝志 研究員、湊秋作 代表理事、饗場葉留果 理事



図 15. 調査風景



図 16. ホウネンエビ

(6) 鳥類調査（山梨県北杜市下黒沢）（図 17、18）

北杜市高根町下黒沢で、2024年4月から2025年3月まで、毎月1回、下黒沢周辺を中心に野鳥の調査を実施した。

2024年度の調査において53種を確認した。

留鳥では、カルガモ、オオタカ、ノスリ、ハイタカ、イカルなどが確認された。

夏鳥ではサシバ、ハチクマ、クロツグミなど、冬鳥では、ツグミ、ジョウビタキ、キンクロハジロなど、漂鳥では、カケス、トラツグミなど、外来種では、ガビチョウなどが確認された。令和6年度の調査においては、

冬鳥のジョウビタキがほぼ通年で確認され、ツグミの飛来が遅くなった。また、昨年に引き続き、夏鳥のカッコウの確認は少なかった。このように、近年、野鳥の出現が通常と異なってきていることも2021年の調査から見えてきている。今後も、環境変動を示す指標として鳥類調査を継続していく必要がある。



図 17. 野鳥調査風景



図 18. ため池で確認されたオンドリ

また、2024年度は、オオタカの営巢の可能性が令和5年度からあったため、調査地区内で調査を開始した。その結果、継続して使用される可能性のあるものが1つとオオタカの可能性があると考えられる巣が2か所、樹上に確認された（図19）。現在も調査回数を増やし、観察を継続し行っている。



図 19. オオタカの巣

また、フクロウの声も夜に確認した。

そして、2021年からの調査でRDBに含まれる種は、定期的な調査と目視を含め以下であった。

絶滅危惧Ⅱ類（VU）ハチクマ

準絶滅危惧（NT）トラツグミ、サンショウクイ、サンコウチョウ、オオタカ、フクロウ
このように北杜市高根町下黒沢地区に、希少種の野鳥が生息していることが明確となった。

調査実施者：小林美博 研究員、湊秋作 代表理事、饗場葉留果 理事

4. 受託調査事業

(1) 令和6年度 紀勢国道環境調査業務

委託期間：2024年4月～2025年3月

業務実施回数：不定期に年数回程実施。

委託費：4,618,900円（税込）

調査内容：

【ヤマネ現地調査】

三重県紀勢道路の工事に伴う、現地指導及び現地調査。

巣箱架設地の確認と架設指導。

【ヤマネ保全対策】

三重県紀勢道路の工事に伴う、現地調査、パスウェイ設計指導及び現地指導、新型アニマルパスウェイの架設に伴うモニタリングに関する指導と植栽に関する指導の実施。

アニマルパスウェイに関するメンテナンスと新アニマルパスウェイの設置などに関する業務の遂行。

(2) (一) 富士河口湖富士線 環境基礎調査業務委託

委託費：3,190,000円（税込）

※3月末の報告書提出のため、2025年4月以降の入金。

調査内容：

富士スバルラインヘキャノピーブリッジ建設の検討に関する調査業務。巣箱を用いた設置位置選択のための調査、糞分析による食性調査、巣材分析を実施した。

また、2025年2月には、アニマルパスウェイの建設地を視察し、確定した。今後は架設に至るよう働きかけていく必要がある。

(3) 山梨中央銀行の森調査受託業務

委託費：4,400,000円（税込）

※2回に分割支払い。2回目は4月以降で振込のため2024年度の収入としては2,200,000円

調査内容：

山梨中央銀行株式会社が保有する、社有林を自然共生サイトへ登録するための調査。調査項目は、ヤマネも含む巣箱調査、植生調査、昆虫調査、クモ類調査を実施した。本調査には、植物、昆虫、クモの専門家へも同定依頼を行った。認定の可否については、2025年秋になる予定である。

5. 教育事業

(1) 生物多様性・いきもの・SDGs・ヤマネの教育活動（表2）

（図20、21、22、23、24、25、26）

本年度の教育活動は計 23 回実施した。教育対象者は、小学生、高校生、企業人、NGO、山梨県行政担当者、研究者、市民などであった。オンラインと対面の両方で開催した。また、企業人対象の生物多様性教育セミナーは、経団連自然保護基金の助成と受託要請を受け展開した。

また、クラウドファンディングの返礼企画として、サイエンスカフェをオンラインと対面にて実施した。対面は東京と京都で実施した。

表 2. 2024 年度実施 教育活動一覧

	業務名	日付(期間)	実施場所	対象者	概要	備考
1	企業人のための生物多様性セミナー 2024 (助成金)	2024年7、10月 2025年1月	北杜市内 東京	企業人	企業人に向けての環境教育。全4回実施。座学、体験、ワークショップをセットで実施。 7月：北杜市の田んぼ 10月：ハケ岳の森 2025年1月：清水建設の研究所	経団連自然保護基金の助成を受け実施
2	企業人のための生物多様性セミナー (受託)	2024年11月 2025年3月	大阪 横浜	企業人	企業人に向けての環境教育。全3回中2回実施。座学、体験、ワークショップをセットで実施。 11月：積水ハウス 3月：京浜工業地域	経団連自然保護協議会からの受託
3	山梨中央銀行植樹祭	2024年4月20日	山梨	行員とその家族	山梨中央銀行が植樹を行う場で生物多様性に関する講演。	
4	つがるのヤマネの話	2024年5月1日	青森	一般 (大人・子供)	環境団体つがるのの関係者に向けて、ヤマネのお話。会場対応。	
5	積寿会セミナー	2024年5月29日	大阪	積水化学 OB・OG	積水化学グループ退職者のための環境セミナー。当日は、講演と生き物体験を実施。	
6	大成建設巣箱作りボランティア	2024年6月1日	山梨	企業の 家族向け	ヤマネの巣箱作りを北杜市内の施設を借用し実施。ヤマネブリッジとアニマルパスウェイの見学、森遊びを体験。	
7	ヤマネ学習	2024年7月4日	オンライン	小学5、6年生	隠岐の島町の中条小学校へのヤマネ授業を実施。ヤマネのことや調査方法などについて紹介。	
8	バイ菌からクジラまで、みんなで学ぶ野学校	2024年8月6日	オンライン	一般	湊代表理事が「田んぼの生物多様性を知る、楽しむ、考える」というタイトルで講演を実施	
9	やまなしエコティーチャー	2024年8月24日	山梨	小学生～ 中学生	ヤマネの研究についての話を中心に、ヤマネの生態と保全についての話を実施。 会場対応。	
10	令和6年度くまの学彩 「自動車専用道路開発とヤマネ保護・教育・防災からのSDGs・生物多様性・故郷の学び」事前学習	2024年10月21日	和歌山	高校1年生	現在調査に関わっている紀勢国道の事業に絡めた開発と防災と生物多様性保護について、実地で学ぶ前の事前学習。三重県の紀勢国道事務所、おわせ学び工房の二村氏と共に実施。	
11	ヤマネ学習	2024年11月5日	隠岐の島	小学5、6年生	生徒たちが調査している森へ一緒に行き調査を行った。また、学校に戻ってからは調査のまとめ作業を行った。今回の調査ではヤマネの親子が発見された。	
12	ちゅうぎんの森プログラム	2024年11月10日	山梨	行員と その家族	農作業を実施するのに合わせて、森の生き物体験を行った。ピーティングを実施。	
13	令和6年度くまの学彩 「自動車専用道路開発とヤマネ保護・教育・防災からのSDGs・生物多様性・故郷の学び」実地見学	2024年11月13日	和歌山	高校1年生	現在調査に関わっている紀勢国道の事業に絡めた開発と防災と生物多様性保護について、それぞれを実際に見られる場所へ行き見学、各箇所説明を行った。紀勢国道事務所、おわせ学び工房の二村氏と共に実施。	
14	企業とNGO等の交流会兼生物多様性に関するビジネスマッチング	2024年12月3日	東京	企業とNGO	ポスターにて企業研修に関して紹介。1分間アピールタイムでは、会場が団体紹介を行った。吉田理事、大竹理事、中山研究員にもお手伝いいただいた。	
15	エコプロダクツ展2024	2023年12月4～6日	東京	一般	アニマルパスウェイの大切さとヤマネについての情報発信を行った。大竹理事が主導で実施し、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会と共同出展した。	
16	サイエンスカフェ@東京	2025年1月11日	東京	一般	クラウドファンディング返礼企画。ヤマネの生態の話と保全の話を実施。特別ゲストとして、下泉重吉先生のご子息である下泉和也様にもご登壇いただいた。来場した参加者との交流も行った。また、会場では、会員であるエンウィットの佐藤氏にも物販をしていただいた。大竹理事、吉田理事にもご協力いただいた。	
17	オンラインカフェ	2025年1月18日	オンライン	一般	クラウドファンディング返礼企画。ヤマネの生態の話と保全の話を実施。低年齢層と大人層に分けて実施。	
18	グリーンインフラ産業展	2023年1月30日	東京	企業人	ピッチイベントにて、アニマルパスウェイについて、湊代表理事が必要性等を紹介。	
19	サイエンスカフェ@京都	2025年2月1日	京都	一般	クラウドファンディング返礼企画。法然院森のセンターのご協力の元、法然院を会場としてイベントを実施。ヤマネの生態の話と周辺の森を利用し、ガイドも実施。冬眠の講演を実施するにあたり、森田理事にも登壇いただいた。吉田理事、会員の佐藤氏にもご協力いただいた。	
20	ちゅうぎんの森プログラム	2025年3月1、2日	山梨	行員と その家族	小型哺乳類のトラップ調査を行員のご家族にも体験いただく機会を持った。	



図 20. 企業研修



図 21. 大成建設巣箱作りボランティア



図 22. 隠岐の小学生向け出前授業



図 23. エコプロダクツ展



図 24. サイエンスカフェ@東京



図 25. サイエンスカフェ@京都



図 26. ちゅうぎんの森プログラム

(2) 企業研修経：団連自然保護協議会からの受託（図 27、28）

委託費：2,200,000 円（税込）

内容：

経団連自然保護協議会からの受託として企業人向けの研修を実施。計 3 回実施予定だったが、2 回になったため 2025 年度に 1 回を繰り越して実施予定である。



図 27. 積水ハウス



図 28. 京浜工業地帯

(2) 論文発表などの活動 (表3)

2024年は、12th International Dormouse Conference (ヤマネ国際学会) にて、湊代表理事、饗場共に口頭発表を行った。また、学会の中でワークショップを実施し、アニメーションを上映し、アニマルパスウェイを含む樹上性動物のためのコリドーについて意見交換を行った。本ワークショップでは、PTESのNida氏にご協力いただいた。

表3. 2024年度実施 学会発表一覧

	タイトル	発表学会名・掲載誌名	発表・出版年月日	発表・執筆者名	概要
1	Bryophytes as nesting material used by dormice on Mt. Fuji	12th International Dormouse Conference (ドイツ)	2024年9月2日 ～6日	湊秋作他	富士山におけるヤマネの利用する蘚苔類について
2	Food habits of the Japanese dormouse on Mt. Fuji by e-DNA analysis.	12th International Dormouse Conference (ドイツ)	2024年9月2日 ～6日	饗場葉留果他	富士山における環境DNAを利用した食性分析について
3	Workshop II (Experiences with bridges and any other structures for dormice to cross roads)	12th International Dormouse Conference (ドイツ)	2024年9月2日 ～6日	湊秋作他	樹上性動物のためのコリドーに関するワークショップ。イギリスのPTESのNida氏と共に実施。

6. クラウドファンディング

達成額：5,492,000円（第1目標額：3,000,000円、第2目標額：5,000,000円）

実際の振込額：4,244,966円

※レディーフォーへの手数料、オプションメルマガなどの途中広報代含むを
支払い後の金額

内容：

ヤマネの調査研究、保全、ヤマネのことを知らせることを目的にクラウドファンディングを実施した。

返礼として、エンウィットのヤマネ商品や教育としてサイエンスカフェの実施、2025年6月には「八ヶ岳の調査に参加できる権利」として企画を実施した。

7. 保護・保全活動

(1) ヤマネ保護・保全の提案

1：富士スバルラインへのアニマルパスウェイ設置の提案（図29、30）

2021年4月に山梨県長崎知事に対し富士スバルラインにアニマルパスウェイ建設とヤマネ調査の必要性を提案して以後、スバルラインを管轄する山梨県道路公社とヤマネ保護についての協議を行ってきた。

2024年11月には、大竹理事も現地へ来ていただき設置場所の下見を行った。それらを踏まえて、2025年2月には建設候補地を道路公社と確認を行った。今後は実際の建設に至るまでに協議を重ねる必要がある。



図29. 下見の様子



図30. 架設場所候補地点

2：国交省紀勢国道事務所へのミエノワアニマルパスウェイとトンネルの坑口の植栽後の指導

紀伊半島を周回する高速道路を国交省は山間に開発している。その山にヤマネが生息し、また、尾鷲地方は南海トラフによる津波の来襲があるため、高速道路は市民の避難場所、物資の道となる。そこで、私たちは、国交省にヤマネ調査、保護、SDGs教育を提案しその結果、ロープやわっぱなど自然に還る素材で作成したミエノワアニマルパスウェイを建設し、その下と周囲に植栽した樹木の育成について指導を行うと共に、トンネルの坑口の植栽についてもその育成についても指導を行ってきた。また、今後、熊野道

路が延長されていくにあたりトンネル工事が進行するにあたり、2024年12月にはトンネル坑口の視察を紀勢国道の担当者と実施し、今後の保全対策についての協議を行った。



図31. 視察の様子①



図32. 視察の様子②

(2) 受託業務での保全活動

前述の受託業務を行うことで、ヤマネの保全へつなげていく。

(3) ヤマネの保護活動 (図 33、34)

2024年7月に富士調査で確認した親子の親個体が死亡したため、哺育を試みた。全4頭のヤマネは11月に富士の森へ放獣することができた。今回、地元にある動物病院では野生動物を見られるところがなく、相談できるところが少ないことが問題であることも分かった。



図33. 哺乳作業



図34. 放獣日の個体

8. 広報活動

(1) HP の運用

管理は主に吉田理事が実施しており、定期的な更新ができています。現在、ヤマネそのものについての問い合わせとアセスメント事業におけるヤマネの調査方法についての問い合わせも増加傾向にある。

(2) 団体用 Facebook の運用

吉田理事により、広報などで更新していただいているが、その他の更新頻度が低いため今後の更新方法について検討が必要である。

また、湊代表理事の意向により、2023年にInstagramを吉田理事に設定していただき開設を行ったが、今後の運用方法についても検討が必要である。

9. メディア紹介（表4）

2024年度は、計2のメディアでの紹介であった。

表4. 2024年度 メディア情報発信一覧

	掲載年月日	メディア	メディアタイプ	タイトル
1	2024年5月18日	毎日新聞社	オンライン記事	ヤマネ、森林開発で生息域ピンチ 山梨の研究所がCFで協力呼びかけ
2	2024年11月23日	朝日新聞	新聞	ヤマネと共生 SDGs学ぶ

10. 寄付関係

(1) 自動販売機

大竹理事のご尽力により、(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会への寄付となっていた自動販売機の寄付先を研究所へ移行していただいた。

2020年より、北杜市役所への設置について湊代表理事が担当者へ相談したが、実現には至っていない。

(2) 会員募集（表5）

現在、会員管理システム（MiiT+）について、吉田理事が設定している。また、会員管理については、アースウォッチに所属する塚本正美さんに引き続き補佐をしていただいている。

表5. 会員登録者数（2025年6月10日現在）

会員種別	人数
賛助会員(個人)	2
賛助会員(個人) 【2口以上】	0
賛助会員(団体) 【2口以上】	1
ヤマネ・いきもの友の会	34
ヤマネ・いきもの友の会未満会員 ※未成年会員	2
総数	39

(3) 個人寄付

クラウドファンディングで研究所のことを知っていただいた方が1名、個別にご寄付を下さった。